



厳のしらかし

《白樺中学校だより 第12号》

令和7年 2月5日発行

文責： 校長 西村 拓司



大寒から立春へ

「一月は往ぬる（いく）月、二月逃げる（にげる）月、三月去る（さる）月」の言葉にもありますように、過ぎ去る時間が早く感じられる今日この頃です。

さて、2月に入り、3日(火)が節分、翌日の4日(水)が立春となります。節分とは、寒さの厳しい「大寒」が終わり、春の始まりを告げる「立春」との季節を分ける意味があります。また、この節分の豆まきは、中国から伝わった風習で、季節の変わり目には「邪気・鬼」が生じると考えられており、その「邪気・鬼」を、豆をまいて追い払う儀式でもあります。

今年の「節分」は、例年以上にいっぱい豆をまいて、物価高や争いごとの「魔(ま)」を「滅亡(め)」させ、みんなが安心した生活ができるようにしたいものですね。



◆ 2年生 職場体験学習を終えて

(文：2年学年主任 田中 宏樹)

不安と緊張に包まれ始まった職場体験でしたが、様子を伺いに事業所を訪問した時、職場の方々から「よく頑張ってますよ」「たいへん真面目でよく動いてくれます」とお褒めの言葉をいただき、とても嬉しくなりました。ある職場では、環境整備の作業で落ち葉拾いや伐採した木の枝の積み込みを黙々としていました。また別の職場では、トイレやお店周りの清掃を丁寧に楽しそうにやっていました。心を込めて一つひとつの作業と向き合っている姿がとても印象的でした。

どの職場でも、私たちがイメージしている普段外から見えている仕事内容はほんの一部で、 実際職場に入って体験しないと見えてこない仕事内容を知ることができたと思います。実はその見えてこない準備や片付け、清掃などの裏での作業がとても重要で、その部分の頑張りが良い仕事につながっていくのです。見えている部分だけ頑張るのではなく、裏方の見えない部分でも心を込めて一生懸命やりきることの大切さを忘れないでください。それは、仕事だけではなく、学校生活や日常生活すべてにあてはまることです。それぞれの職場で学んだことを実生活に生かしてください。



◆ ちはやふる 百人一首大会 (1年生)

(文: 1年学年主任 大隅 成悟)

1月27日(火)に、1年生の新春イベントとして百人一首大会を行いました。古典に親しみ、日本語のリズムや言葉の美しさを味わうことを目的として、国語の授業でも取り組んでいただきました。授業で覚えた歌や決まり字を生かしながら、みんな真剣な表情で札に向き合っていました。

大会は6つのグループに分かれて行われ、どのグループも一枚一枚の札に集中し、白熱した勝負が繰り広げられました。会場では、上の句を聞いて即座に反応するグループもあり、札を取った瞬間の歓声や、お手つきで残念がる声などで会場は大いに盛り上がりました。勝敗に関わらず、最後で粘り強く取り組む姿や、相手を称える態度から、1年生としての成長を感じることができました。



◆ 新入生保護者説明会・新入生体験入学を終えて 1月30日(金)

1月30日(金)に、新入生保護者説明会および体験入学を実施しました。

保護者説明会では、はじめに榎原警察署のスクールサポーターより、犯罪に巻き込まれないために心がけることについて、具体的な事例を交えた講話がありました。続いて、本校生徒指導主事より、学校生活全般についての説明や、本校の制服・校則、入学に向けた準備物や諸経費に関する手続きについて説明しました。最後に、榎原市教育委員会および榎原市スポーツ協会の方から、部活動の地域展開に関する説明がありました。

新入生体験入学では、3年学年主任より学校生活についてのガイダンスがあり、その後、2グループに分かれて「数学」と「社会」の授業を体験しました。数学ではマッチ棒を使った図形の問題に取り組み、社会では中学校で学習する地理や歴史の話をしました。新入生が活発に発言し、意欲的に授業に参加する姿が印象的でした。笑顔が広がり、中学校の雰囲気を感しながら、楽しい一日となりました。

▶▶ 【部活動地域移行実証事業について】／榎原市公式ホームページより

令和4年12月にスポーツ庁・文化庁から示されたガイドラインに基づき、中学校部活動の地域移行が全国的に進められています。奈良県においても令和5年度から令和7年度末までを改革集中期間とし「令和8年度から休日における教員の指導による学校部活動を廃止する」方針を示しました。本市におきましても、現在、将来にわたり子どもたちが、自分の好きなスポーツや文化芸術活動に親しめる機会を確保できる、休日の新たな「地域クラブ活動」の環境の整備を進めているところです。

(ホームページより抜粋)



QRコード